



徳川美術館 名品コレクション展示室

令和6年 6月11日(火)～9月8日(日)

展示期間 A:6/11(火)～7/9(火) B:7/10(水)～8/6(火) C:8/7(水)～9/8(日)

凡例:◎は重要文化財を示します。

【第1展示室】

武家のシンボル – 武具・刀剣 –

大名はいうまでもなく武士であり、その集団の長であったため、泰平の世の江戸時代にあっても常に軍備を怠ってはならなかった。大名家の武器武具は単なる戦闘実用品ではなく、同時に「武士の心根」を表すように美しく気品に満ちていることが必要だった。中でも刀剣は「武士の魂」といわれる通り、武士の精神の象徴として大切にされ、最も高い格式を持ち、公式の贈答品の筆頭ともされた。大名の甲冑は、一軍の大將の着用品である。武威と気品に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めてはた目にも美しく見えるように作られた。

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	金箔置紅糸威具足		徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)着用	江戸	18	
2	葵紋蒔絵糸巻太刀拵		徳川五郎太(尾張家5代)所用	江戸	18	AB
3	葵紋蒔絵糸巻太刀拵		徳川慶臈(尾張家13代)・義宜(同家16代)所用	江戸	18-19	C
4	金の丸函軍扇		徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	A
5	白鳩・龍函軍扇		徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	BC
6	三団子形馬標(関ヶ原合戦時使用)		松平忠吉(家康4男)・徳川義直(尾張家初代)所用	桃山	16	
7	青貝柄槍拵 黒塗鞘付 五本			江戸	18-19	
8	関ヶ原合戦図屏風 二曲二双		田安德川家伝来	江戸	19	A
9	関ヶ原合戦地図屏風 四曲一隻		田安德川家伝来	江戸	19	A
10	長篠合戦図屏風 六曲一隻 複製(原本 徳川美術館蔵)			平成	21	B
11	長篠合戦図屏風 八曲一隻			江戸	18-19	C
12	火縄銃 二匁五分筒 筒 人物禽獣唐草文象嵌 彫銘 "SAM THOME"			江戸	17	BC
13	火縄銃 三匁五分筒 銘 刃鉄藤巻張 寛文五年巳三月吉日 芝辻小兵衛清正(花押)	芝辻小兵衛清正作		江戸	寛文5年<1665>	BC
14	火縄銃 二十匁筒 筒「地」銀象嵌 銘 国友氏正	国友氏正作		江戸	文化11年<1814>	BC
15	火縄銃 三十匁筒 筒「地」銀象嵌 銘 国友氏正	国友氏正作		江戸	文化11年<1814>	BC
16	葵紋蒔絵毛抜形黄金造太刀拵			江戸	17	A
17	葵紋蒔絵細太刀拵		徳川斉荘(尾張家12代)・慶勝(同家14代)所用	江戸	19	BC
18	金襴包刀拵		徳川義宜(尾張家16代)所用	明治	明治2年<1869>	AB
19	金襴包脇指拵		徳川義宜(尾張家16代)所用	明治	明治2年<1869>	AB
20	蠟色塗刀拵		徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	C
21	蠟色塗脇指拵		徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	C
22	太刀 銘 備州長船盛景 嘉慶二年八月日		徳川宗勝(尾張家8代)・慶勝(同家14代)所持	南北朝	嘉慶2年<1388>	
23 ◎	刀 折返銘 備中国住次直		徳川光友(尾張家2代)・成瀬正虎(犬山成瀬家2代)所持	南北朝	14	
24	脇指 象嵌銘 包永		徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)所持	室町	15	
25	短刀 朱銘 左安吉 徳川光友朱銘		本多忠義献上・徳川義直(尾張家初代)・ 光友(同家2代)・綱誠(同家3代)・義宜(同家16代)所持	南北朝	14	
26	本阿弥光温折紙 寛永十七年辰三月三日 (No.25 短刀 朱銘 左安吉 附属)			江戸	寛永17年<1640>	
27	御腰物元帳 智吉			明治	明治5年<1872>	
28	鷲図三所物 銘 後藤光美(後藤家15代)			江戸	18-19	
29	網引牛図二所物 無銘 廉乗(後藤家10代)			江戸	17-18	
30	獅子図目貫 無銘 廉乗(後藤家10代)			江戸	17-18	
31	黄蜀葵図赤銅鐺 銘 尾州住一光堂(印) 大小二枚			江戸	18-19	
32	秋海棠図透鉄鐺 銘 長州住正定			江戸	18-19	

【第1展示室の見どころ – 具足飾り –】

大名の甲冑は、一軍を指揮する大將の威厳を示す着用品である。武家の長としての威厳と品格に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めて、はた目にも美しく見えるように作られた。展示室入口正面の展示ケースは、名古屋城二之丸御殿の御夜居之間で毎年正月十一日に行われた「具足始め」の飾り付けに基づいて展示している。「具足始め」とは甲冑を飾り、その年の武運を祈願する尾張徳川家の年中行事である。甲冑の向かって右手に掲げられている「馬標」は、陣中や戦場において大將の居所を示すしるしであった。また、甲冑の後ろに掲げられた葵紋付きの大きな旗は「馬標」と同じ役目があり、「纏」と呼ばれている。